

市場・流通関係者と産地・生産者の交流会が開催されました！



10月25日(火) 東天紅上野店の別館「平成ホール」において、東京中央卸売市場茨城県人会(会長：柏 武彦 東京多摩青果株式会社 代表取締役社長)の主催により、「市場・流通関係者と産地・生産者の交流会『がんばろう』郷土茨城の農業復興をめざして！！」が開催され、茨城野菜研究会、茨城果実研究会、茨城切花流通研究会、茨城鉢物流通研究会、茨城うまいもんどころ味クラブ、

(社)茨城県花き園芸協会、茨城県産米銘柄化協議会などの共催・後援団体や、農協・農業法人などの生産者、関係機関など380名が参加しました。

3月11日の福島第一原発事故からの復興を願い、「茨城農産物販売支援宣言」で幕を開け、柏会長から「3月11日の東日本大震災による被害と、それに伴う福島第一原発の事故により、我が茨城県でも甚大な風評被害を受けた。しかし、橋本知事のもと、全国に先駆けて迅速な損害賠償請求を行うことが出来た。今後も、県人会として、力一杯応援していきたい。」とあいさつがありました。



来賓として、橋本茨城県知事、全農茨城県本部運営委員会加倉井会長がご出席され、橋本知事は「福島第一原発の事故による風評被害では、発生当初は、出荷制限のあるなしにかかわらず取り扱い拒否にあうなど、不当な扱いを受けたが、夏以降、青果の価格も持ち直して来た。県人会からは、震災直後に支援物資が届けられ、その心遣いに胸が熱くなった。これからも、県人会のますますのご発展を願ってやまない」とご祝辞を述べました。

また、県内の5つの農協が自慢の特産品のPRを行ったり、米粉宣隊KMK44(米粉の利用促進を図る4人の女性グループ)のPR、常陸牛やローズポークなどが当たる抽選会が行われたりと、大いに盛り上がりました。



用意された料理には、茨城県産の青果物・肉などがふんだんに使われ、また、茨城県産のバラや、シクラメンなどで飾られた会場の中で、市場関係者や産地生産者は、県産食材や地酒などを堪能しながら、終始和やかな雰囲気でお互いの親交を深め、盛会のうちに幕を閉じました。